



窪田弘子 議員

コミュニティバスの運行を

今年度調査に取りかかる

池田町の高齢化率（65才以上の占める割合）は2割、区によっては3割を超え、これから高齢者のみの世帯や一人暮らしの増加も予想される。そういう方々も、買い物・医者通い等の足の確保ができれば、慣れた地元に住み続けられる。このコミュニティバスも採算が合わないのだが、中部5県で8割の自治体が運行している。温泉バスの休みの時など、まず週一回でも二回でも走らせたらどうか。

町長

足の確保を切実に望むお年寄りの声も聞いている。できるだけ何とかしたい。低床式バスや路線についても調査・検討する為、今年14万円の予算をつけた。



池田町図書館の北に休憩している温泉バス

最初はお金をかけない温泉バスを利用し、徐々に交通弱者の使いやすいものに育てて行ってほしい。バスの購入や運行経費に補助金はどの位もらえるのか。

町長

県の補助金が1/3出る。

主要地方道、岐阜関ヶ原線は将来の大動脈

養老鉄道踏切(神戸町)を高架にしないと大渋滞を招く



岐阜関線の養老鉄道踏切（神戸町丈六道）

岐関線の4車線化が東の方から着々と進められ、まもなく神戸町が力を入れて平野庄橋が完成し渋滞が減る。10年後には東海環状線の大野神戸インターもできる。将来の池田町にとって岐関線は全国へつながる生命线だ。

町長

町長・議会一体となって踏切を高架にするよう、国・県・神戸町・養老鉄道へ働きかけ、お願いをすべきではないか。

私も強く働きかけて行くので、よろしくお願ひしたい。